



林家とみ葬儀、一心寺にて。後列左端が筆者

四つ目 お囃子一代 林家とみ

——ここで、今ちょっと話の出した、寄席囃子三味線方で初めというか、唯一の無形文化財になられた林家とみさんについてお話をうかがいたいと思います。亡くなられたのは確か三代目染丸さんよりあとでしたですね。

そうですね。大変長命で、昭和四五年四月一日、八六歳で亡くなっています。病気でではなく、高齢による老衰です。ご主人の二代目林家染丸も八五歳のとき、すやすやと眠るようになつて亡くなっていますから、夫婦そろって天寿全う、大往生です。その二日後、落

語にもゆかりの大阪の名刹、一心寺で告別式が執り行われました。演芸関係の人はもちろん、ゆかりのある方、放送関係や一般の方々も含めて、そうですね、千人以上はおられたと思います。

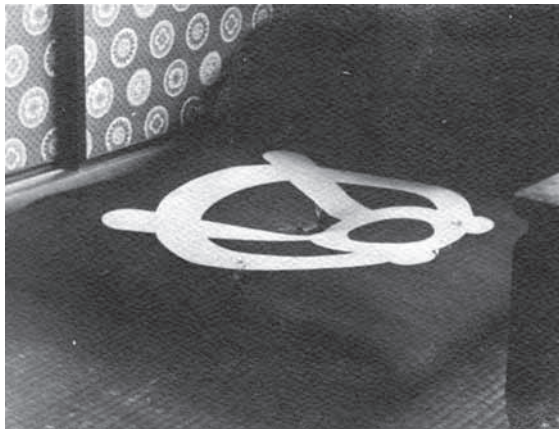
——大変盛大な葬儀だったんですね。

ええ、なにしろ当時人気のあった漫才師や落語家も、ほとんど来ていただきましたから、噂を聞きつけた一般のみなさんが、お参りかたがた有名人の顔を見ようという……(笑)。その日は四月に入りましたのに、寒くてね。出棺のおりには小雪がはらはらと散りました。斎場へ向かう霊柩車のあとを、ベテランの漫才師で、粋なおっ師匠はんやった花柳貞奴さんが追っかけるようにして、真っ白なハンカチ振りながら「おっ師匠さん、さいなら」と涙交じりに大きな声でおっしゃったのを昨日のように覚えています。もううちの師匠も亡くなっていましたから、うちの師匠の弟弟子、三代目染語樓おとうとが取り仕



⇨林家とみ・三代目染丸に取材・インタビュー中の富士正晴（左）

⇩ぬの字兎が染め抜かれた座布団。2代目染丸自宅にて



切りました。

——一心寺でというのは何か理由があった。

二代目染丸が一心寺の境内に、初代染丸と実父である岡本美国太夫の墓を建てていまして、その後ろの師匠が、二代目の石碑をその後ろ側に建てました。私も何かにつけてお参りしています。

——初代さんと二代目さんは血縁関係ですか。

いえいえ、まったくありません。初代さんは林家菊丸（初代）の弟子で、幕末から明治三〇年ごろまで

活躍しており、『落語系図』に写真があります。のちに浅尾新七と改名しています。富士正晴著「紅梅亭界限 林家染丸・トミ」(『桂春団治』河出書房、昭和四二年刊に所収)の中にこうあります。「初代染丸は染物職人で、染料のしみた手で高座にのぼったといわれているが、大の名人でそのレパートリーもひろく、人情咄、素咄……何でもできぬものではなく、特に滑稽咄がよかったとはトミさんの思い出である」。手首まで藍で染まっていた、そこで染丸となりました。一〇年以上途切れていた名前を松喬が二代目として襲名したのです。七代目の桂文治の肝いりやそうです。ここで因縁めくのですが、初代も二代目も、ともに干支が卯年なんです。そこで初代は真向き兎を定紋としていたのですが、二代目はその紋を受け継ぐとともに、新しくデザイン化して、現在も私たちがつけている「ぬの字兎」をつくりました。そうした不思議な縁と親の恩を忘れぬための石碑建立だったようです。

——林家とみというのは、お囃子のときの名前ですよね。お囃子さんはみな、そういう芸名をつけるのですか。

そういうわけではありません。嘶家のおかみさんに限って旦那の屋号をつけるのです。たとえば、先年亡くなった桂枝雀さんの奥さんは、お囃子のとき

伊勢音頭

いせおんど

4 4 4 4 | 4 4 4 4 | 6 4 4 6 4 4 | 6 4 4 6 4 4 | 6 4 4 6 4 4

い せ わ ————— な ア

6 4 4 6 4 4 | 6 4 4 6 4 | 6 4 | 5 4 | 5 5 5 4 | 6 4 5 4

— つ で エ エ も オ つ ウ つ わ い せ エ エ

○ 2 2 ○ | 1 ○ ● 3 | ○ ○ 3 | 4 4 5 4 | 5 ○ 4 5

エ で エ も オ つ ヨ オ イ ヨ イ お わ ア リ イ い な ご

○ 3 3 ○ | ○ 2 ○ | 1 ○ ○ 1 | ○ 2 ○ 1 ○ | 4 4 4

オ や — わ ア ヤ ン レ エ エ し ろ デ エ エ も オ つ

6 6 4 ○ | ○ 7 7 7 7 | 6 4 | 5 4 ● 3 3 | ○ 4 4 6 4

ヤ ア ア ト コ セ ————— ヨ オ イ ヤ ナ ア リ ヤ リ ヤ コ レ ワ イ

5 ○ 4 4 4 ○ | 1 ○ 3 | ● ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ●

セ ————— コ ノ ナ ン デ モ セ エ —————

歌詞……………

伊勢はなあ津でもつ 津は伊勢でもつ ヨーイヨイ 尾張名古屋はヤンレ城でもつ
ヤットコセエヨオイヤナ アリヤリヤ コレワイセ コノナンデモセエ

本調子

雪
ゆき

4 - 4^v 4 4 6 1 ○

ほんにむかしのお

5 5^v 9⁻¹⁰ 10 - 5 4 3⁻⁴ 4 3⁻ ○ 4 ○

むかしのことよわが

5 4 1[○] 4 1 4 1 3⁻ 4⁻⁶ 1¹ 1 1

まつひともわれをまちけん

1 1 4 4[○] 4[○] 1^ラ 3 4 5^v 5 4 4 3⁻ 4 3⁴ 4[○]

4⁻⁶ 7⁻⁶ 4⁻⁶ 1 ○ 4 6 3⁻⁴ 4⁻ 1^ラ 9⁻¹⁰ 5 4 5 -

おし

5 5 - 5 5 - 4 3 3 4 5 - ×

のオをとりにイイもの

歌詞.....

ほんに昔の昔のことよ 我が待つ人も我を待ちけん 鶯鶯の雄鳥に もの（思い羽の）